

— くれよん通信 —

NO. 11

どうしても書きたかったこと

今回は、私の体験ではなく、コスモママ友のお話しをご紹介します。そのお母さんには、了解を得て書かせて頂いております。

『今のことだけじゃない。小学校の普通学級に行けるとか、特別支援学級とか、養護学校だとか、そんな目先のことでいいの。この子が一生を通じて生きる上で大切な事を身につけて欲しい…』初めての面談の時に言われたのですが、ピンとこない言葉でした。コスモスの門をたたき親は少なからず今この子とどう向き合っていくべきなのか？どう育てたらいいのか？どうかかわるべきなのか？『今』が辛くて来ている親が多いと思います。自分の事を思い返せば、息子が2歳半の時はただ暗いトンネルの中で息子と必死にもがいていた状態でした。そんな『今』をどうにかしてほしくて面談に来ているのに、「一生??」「生きる上で大切??」なんだかスゴイ事を言っているような気がしていましたが、その時の私にはわかるすべがありませんでした。

コスモスのママ友はみんなあったかくて、優しく、子どもにちゃんと向き合いたい、集団の中で育てたいという気持ちのいっぱい集まっています。私が通所しはじめた時、その男の子は息子より一つ上で、週に2回お母さんが仕事が休みの時にコスモスに通っていました。初めは他の保育園に通っていたのですが、コスモス・保育園での先生方の関わりでみるみる子どもが変わっていく姿をみて、どうしてもコスモス・ちい森で育てたいと、年少の途中から保育園を変えた親子でした。男の子は、とても恥ずかしがり屋で大人しい感じの子でした。車が大好きで、息子を迎えに行くと門のところ立っていて、ニコニコしながら車の名前を言っていたのが印象的でした。年中に進むにつれて、単語しか出ていなかったのが二語文・三語文へとなり、年長さんになる頃には、私に会うと「ねえねえ、今日〇〇したよ」と自分から話かけてくれるようになり、自分の気持ちをしっかり話せるようになっていきました。もちろん、コスモスの先生方の関わりも心に届いての発達なのでしょうが、お母さんも遠方からの送迎をがんばり、暑い日も寒い日も雨の日も大雪の日も、子どもを連れてくる姿はこちらも勇気づけられるものがありました。その子は小学校入学は普通学級へと進路を決めていきましたが、園長からの卒園に向けてのメッセージは「けっしてつめこまないこと。勉強だったり、習い事をおしつけたりしないように」と言われていたそうです。小学校入学を期に三沢わがんせが近いということもあり、コスモスへは通所しなくなりました。

今年の年長さんの行事に奥入瀬ウォークがありました。学童さんも参加出来る行事でしたが、その子は参加しませんでした。園長から「ちょっと、〇〇にぜひ参加するように話してくれない？」最初は優しい感じの園長でした。「ひろ子が会いたいって言ってね〜♥」しかしお誘いの結果はNG。理由は子どもの入学を期に仕事が月～金フルタイムとなり、土曜日も半日出勤で疲れていて、ゆっくりしたい。子どもも行きたくないと言っているし…。その言葉をそのまま園長に伝えると「ダメ、絶対に参加しなさいって言って！！」

何故そんなにその子だけの不参加にヤキとなっているのか、その時は分かりませんでした。その数日後、また園長からお話しがあり、「ひろ子が会いたいって伝えて、くれよんやろうよ。〇〇のママも一緒にお茶しようよ。」といわれました。ひろ子先生が集まろうって声をかけるなんて、珍しいこともあるもんだと思っていました。その園長の思いを伝え、ようやく久々のくれよんで集まることができました。久しぶり面々に皆の近況報告などをしあい、昔の話で盛り上がり、涙し、和やかな感じでした。話が途切れた時「さて、今日の本題ね。〇〇戻ってる。自閉的な方へ戻ってるよ。」……その子のお母さんは目を丸くして「え！！！！」と言い、暫らくして「本当ですか？」と尋ねました。お母さんの顔はみるみる曇り、今にも泣き出しそうな感じになりました。私達もどうしていいかわからずにいました。「どうし

てそう思うんですか？」お母さんの問いかけに、「この間、〇〇が園庭で遊んでるところを偶然みたの。元気～？っていったらね、一人遊びをしていて、これ何って聞くの。でも〇〇はその答えを知っているのに私に聞いてきたんだよね。」「そうなんです、ひろ子先生。昔よく、これ何色って聞いてくるんですけど、〇〇は答えを知っているのに何度も聞くんですよ。おかしいなあって思っていて…それを最近またやるようになってきて。」その子の遊び一つでその子がどんな状態であるのかをわかってしまう園長の言葉にゾツとして、鳥肌がたちました。それと同時に、卒園してもなお子どもたちの事を見守ってくれているという、心遣いに心が震えました。「ねえ、勉強しなさいとか言ってない？宿題をチェックして、ここが違うとかちゃんと書きなさいとかガミガミ言ってない？」「ハイ、言ってません。園長が宿題のチェックもしなくていいっておっしゃったので、本当はみたいんですけど、わがんせの先生方にお任せしています。」「じゃあ、学習塾に行ってるってきいたけど、そっちはどうなの？」「はい、楽しいって言ってます。塾からでる宿題もあって…」「えっ宿題？学校の宿題の他にまだ宿題なの？やめさせなさい！！」「でも10分とか20分で終わるんですよ。」「時間の問題じゃないでしょ。小学生が10分・20分何かを集中してやるのは大変なことなのよ。まだまだ勉強じゃなくて、いっぱい体を使って遊ばせなくちゃだめよ。勉強についていかなきゃ、遅れちゃいけないって、そう思うんですよ、お母さんが。じゃ、勉強ができるようになって、点数があがって、それで〇〇はどうなるの？それでいい子になるっていうの？それはあなたが望んでることで〇〇が望んでることじゃないの。学習塾をやめろとはいわないけど、宿題は学校のだけにしてあげなさい。それから、この間の奥入瀬ウォークに来なかったでしょ。〇〇にこそ必要なことだと思ったの。集団の中で、親と離れて仲間と行動する事ってとても大事なのよ。子どもが行きたくないっていうから？嫌な先生がいるから？嫌な事なんてこれからいっぱいあるんだよ。子どもが嫌だって言えば親がハイハイと言って従う。親が子どもに操作されてどうするの？〇〇が年長さんの卒園の時には、ちゃんと集団の中で皆と一緒にやっていけるようにして卒園していったのよ。それを親が下げてどうするの？」お母さんは、静かに涙をながして聞いていました。トドメの園長の一言は「あなたは、〇〇の様子がおかしいって分かっていたでしょ？」「ハイ、すみません。」

小学校入学は育児の上で一つの区切りとなります。卒園と同時にコスモスに通わなくなってしまう子どもも多くなります。しかし、コスモスに通う子どもたちの弱さが消えることは決してないと思います。弱さを治す為にコスモスがあるわけではないのです。弱さを抱えながらどう生きていくか、どんな道に進むのか、母子通園を通じて子どもたちというより私達親が考え学ばなくてはなりません。弱さがないにかかわらず、どんな子にも生きる上での越えねばならないハードルがあると思います。だれしも平等に与えられた、それぞれのハードルが…。大事なはそのハードルにどう向き合うか。幼少期の今なら、園長をはじめコスモス・保育園の先生方と一緒に向き合えることができます。その一つ一つの経験が子ども達の力となり、いつか自分の力でハードルに向き合える力となると確信しています。園長が常におっしゃっている「生きる力をつけさせたい」。その為に、今の私と息子と家族にとって必要なことは何だろうと考えさせるくれよんでした。

翌日、そのお母さんから「ありがとう。私の為に集まってくれたんだね。言われた時は辛かったけど、心のモヤモヤがとれました。また、息子とがんばります。」とメールをいただきました。一週間後にたまたま園庭で遊んでいるその子を見つけました。「おはよう。」と声をかけると自分から「今日は、お母さんに送ってもらってコスモスに来たよ。」と話してくれました。表情も明るくなってみえたのは気のせいだったのでしょうか？

皆さん、どうぞくれよんに遊びに来てください。子育てに迷ったり・悩んだりしながら、私達も親として成長していきましょう。くれよんにくると、少し元気になって、少し笑顔がふえますよ。



◆書いていただいたお母さんの文章をそのまま掲載しています◆